

日野町に磔殺せられ、照蓮寺と金剛寺とは夙
く出奔して刑を免れた。

キユウマイ 給米 ↓ムラキモイリ 村肝

キユウヨ 休養 金澤淨土宗心蓮社の開山。

京都清淨華院三十五代の僧で、心蓮社休養露
月といひ、慶長十七年金澤に來り、前田利常
に請うて當寺を建て、寛永五年十二月十二日
寂した。休養は能登の長綱連の末子菊松丸が
難を逃れて生存して居たものであるといひ、
天和元年に歸還した同寺の鐘銘にも、『慶長
年中草創。陽紫沙門休養上人露月和尙開闢地
也。釋露月者。舊能州人長谷部長兵衛尉信連
之末葉也。出家之後願仰累日。智行積年。德
風發四方。威光耀遠近。而往洛陽清淨華
院。隱居之後來北陸。而築立新地。題號心
蓮社云々。』と見える。長氏家傳ではこの僧
を長勢と書いてゐる。又今の心蓮社の過去帳
には休養の示寂を慶長十三年十月十二日とし
てゐるが、それは誤であらう。

キユウロク 給録 ↓シヤセンホツ 斜録

キョウウンジ 行雲寺 河北郡小坂に在つ
て、眞宗東派に屬する。もと石川郡柳川に在
り、明治三十九年金澤に移り、大正四年今の
地に轉じた。

キョウウエ 慶惠 ↓チンユウ 珍祐。

キョウウエ 慶惠 石川郡鶴來金劍宮の社僧
で、常光院又は藤坊と號し、法印であつた。
文藻隨の豐富、寛正六年には善光寺紀行を、
文明十八年には北國紀行を遺した。これらは
皆國文を以て記されたものである。慶惠が明
應二年將軍足利義隆の遣れて越中に在つた

時、その旅宿に至つて歌をよんだことは、下
總集に記される。

キョウエイジ 敬榮寺 金澤千日町に在つ
て、眞宗東派に屬する。もと石川郡御供田村
に居たことがある。

キョウエイジ 經榮寺 石川郡八田中に在
つて、日蓮宗に屬する。明治十三年の建立。

キョウエイジ 慶英寺 鹿島郡一青に在つ
て、眞宗東派に屬する。明治十三年七月の創
立に係る。

キョウエン 慶縁 ↓モクリヨウ 黙了。

キョウエン 行圓 行圓は白山行者の徒で
ある。三國傳記に、昔大和の國の勝永房阿闍
梨行圓といふ人、天祿二年七月一日午の刻に、
加賀の國白山の禪定に參つて大御前に念誦し
たら、彼の山の御厨の池に立つ頭光、御寶前
の上に聳えて、立像十一面觀自在菩薩影向し
給ふこと二時許りであつたと記されてゐる。
天祿は圓融天皇の御代である。

キョウエンジ 教圓寺 羽咋郡大田に在つ
て、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、
明治十二年三月寺號の公稱を許された。

キョウオウウンリヨウ 恭應遷良 連良字
は恭應、又恭翁とも書し、元琳と號する。そ
の郷國を詳かにせぬ。或は曰く出羽の人であ
ると。初め同國玉泉寺の了然明禪師に師事
し、十九歳にして菩提受戒し、後洞谷に到り
磐山紹瑾に謁して、曹洞一派の深旨を傳へ、
擘いで鷲峰に赴き心地覺心に隨ひ、參究して
契悟する所があつた。是に於いて復南都の東
大寺に轉じ、戒壇院の禪然が華嚴經の講席に
列したが、禪然もまた連良から禪旨を受け、
互に啓發して意氣太だ相投じた。連良はより

臨濟宗萬壽寺の南浦明禪師を訪ひ、或は紹明
禪師に隨つて壽福・建長の諸大寺に在つた。

時に大乘寺は紹瑾既に退位し、適當の法嗣を
闕いたから、紹瑾は連良をして之に居らしめ
たに、寺門の禪風爲に大に振揚したが、衆中
連良が臨濟の徒なるを以て之を疏斥した。連
良乃ち移つて白山山麓の眞光寺に寓したが、
檀越某之に歸依し、爲に河北郡に瑞應山傳燈
寺を興造し、連良をして開山たらしめ、隣民
亦その高德を慕ひ、興禪寺を構へて彼を第一
世たらしめた。連良擘いで越中に巡錫し、放
生津に草庵を結んで興化寺と號し、又兜率寺
を開いて同じく開山となり、興國二年(曆應
四)八月十二日遺偈を書して寂した。享年七
十五。その墳は傳燈寺に在る。著す所に正法
眼藏正傳血脈相承說見性鈔語錄がある。

連良又繪畫を能くし、その描く所の大悲の像
は、曾て加賀大野の尼寺に之を藏した。正平
十五年(延文五)後光嚴院は益を佛懸禪師と賜
ひ、應永十六年後小松天皇は佛林慧日禪師と
加賜したまうたが、此等の繪旨皆延應三年三
月二十四日の回祿に罹つて今存せぬといふ。

キョウオウジ 經王寺 金澤下鶴間町に在
り、壽福山と號し、日蓮宗に屬する。慶長十
年前田利常の生母壽福院が、越前府中經王寺
から養仙院日證を招いて創建したもので、日
證の師妙成寺十四代日涼を開祖とする。寛永
八年火災に罹り、正保四年再造、承應三年に
は寺額五十石を寄進せられた。

キョウオウジマ 經王寺前 金澤經王寺
の門前地である。明治四年四月その稱を廢
し、下鶴間町に屬せしめた。

キョウオウジ 慶恩寺 金澤二十人町にあ
つて、眞宗東派に屬する。寺記に、當寺開基
慶心坊は大和小山の出生で、壯年の頃出家得
度し、本願寺蓮如の弟子となり、延徳三年加
州金澤御坊建立につき、堂守として本願寺か
ら指向けられたもので、金澤木・新保に自坊
を造營したが、後川原堅河原町に移轉し、萬
治元年更に現在の地に移轉したとある。俗に
この寺を御坊慶恩寺と呼ぶは、同じく小立野
に經王寺があつて、稱呼相類するが故に、彼
を法華經王寺といふに對するものである。

キョウオンジ 教恩寺 能美郡小松泥町に
在つて、眞宗東派に屬する。

キョウオンボウ 慶恩坊 ↓レンキョウ
連慶。

キョウカ 狂歌 加賀藩に於ける狂歌は元
祿・寶永の頃服部元好の出たのを最も早しと
し、享和・文化に及びて堀越左源次があつた。
二人皆一時名を坊間に馳せたが、その調卑俗
未だ堂奥に達しなかつた。蓋し藩政の時落首
の行はれたこと頗る盛で、その落首には狂歌
を以てするもの多かつたが、元好・左源次の
如きはこれらの徒の稍巧妙なるものと見るべ
きである。然るに藩末に近く藤川鈴丸があり、
醫を以て狂歌を能くし、名三郡に開えた。又
市人西南宮鶴馬があつて蜀山人等と風交を結
び、その作る所輕妙洒脫、風韻に富み、能く
狂體の眞面目を發揮した。鶴馬の門人亦多く、
斯道流行の絶巔に至つた。この頃江戸の狂歌
師荷葉亭長根は、本阿彌光悅の末裔で刀劍の
鑑識を業としてゐたが、その金澤に來るや僞
屏數月、同好者の之が爲に刺戟を受けること
少くなかつた。

キョウカクジ 慶恩寺 金澤百姓町に在つ